

事務連絡  
令和2年9月17日

公益社団法人日本PTA全国協議会  
一般社団法人全国高等学校PTA連合会 御中  
全国国立大学附属学校PTA連合会

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課

### 脊柱側弯症の早期発見について

各団体におかれましては、日頃から家庭における教育や学校・家庭・地域の連携に積極的にお取り組みいただいておりますことに感謝申し上げます。

脊柱側弯症は、脊柱（背骨）が何らかの原因で左右に曲がってしまう病気です。男子にも見られますが、特に12歳前後の女子が多く発症し、9～10歳頃から注意して観察する必要があると言われております。

この病気は早期に発見し治療することが重要であることから、別添の事務連絡の通り、教育委員会等に対し、児童生徒等の健康診断において事前に保健調査（保護者に記入いただく健康に関する調査票）を実施する際に、家庭での脊柱側弯症のチェックポイント等を分かりやすく示し、各家庭での確認を促すよう、改めて依頼しました。

つきましては、各団体におかれては、貴管下の団体や会員である保護者の方々等に対し、各御家庭においても別紙を参考に、脊柱側弯症の早期発見に留意されるよう呼び掛けていただきたく、よろしくお願い申し上げます。

（別添）

「児童生徒等の脊柱側弯症の早期発見について」（令和2年9月17日付け文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課事務連絡）

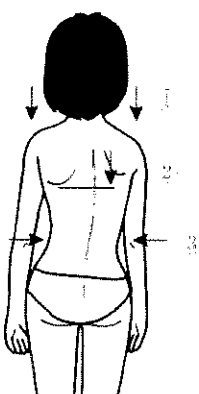
<本件連絡先>

文部科学省：03-5253-4111（代表）  
初等中等教育局健康教育・食育課（内2918）


脊柱側弯症早期発見のための家庭におけるチェックシート（例）

家庭でできる姿勢の検査

立位検査



前屈検査

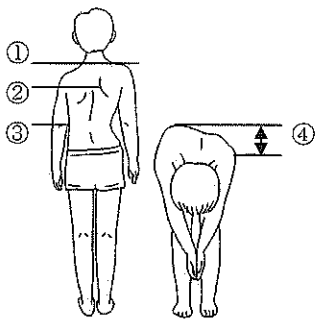


脊柱側弯症の早期発見のためにご家庭でもチェックをお願いします。

\* 四つのポイント \*

- ① 両肩の高さの違い
- ② 両肩甲骨の位置、高さの違い
- ③ 脇ラインの左右非対称
- ④ 前屈したときの、背面（肋骨及び腰）の高さの違い

※「児童生徒等の健康診断マニュアル 平成 27 年度改訂」（公益財団法人日本学校保健会）17 ページより抜粋

1) 脊柱側弯症…早めの発見を	保護者記入欄	学校医記入欄
	<p>4つのチェックポイント</p> <p>① 両肩の高さに差がある</p> <p>② 両肩甲骨の高さ・位置に差がある</p> <p>③ 左右の脇線の曲がり方に差がある</p> <p>④ 前屈した左右の背面の高さに差がある</p>	<p>① 疑い</p> <p>② 経過観察</p>

※同マニュアル 28 ページ（「運動器検診保健調査票」千葉県医師会作成）より抜粋